

平成 22 年度

# 栃木県政世論調査

結果の概要

平成 22 年 10 月

栃木県

# 目 次

---

調査の概要	1
調査の結果	2
1 暮らしの変化について	
(1) 暮らしの変化	2
(1-1) 暮らしが悪くなった理由	3
(2) 暮らしの満足度	4
(3) 今後の暮らしの状況	5
(4) 今後の暮らしで力を入れる点	6
2 県政への要望について	
(1) 県政への要望	7
3 行財政改革について	
(1) 行財政改革についての考え	9
(2) 行政と民間との役割分担についての考え	10
(3) 評価する行財政改革の取組	11
(4) 今後力を入れるべき行財政改革の取組	12
4 ボランティア・NPO等による社会貢献活動について	
(1) 社会貢献活動への関心	13
(2) 社会貢献活動への参加状況	14
(2-1) 参加してる社会貢献活動の分野	15
(2-2) 社会貢献活動へ参加しない理由	16
(3) 「とちぎボランティアNPOセンター」の認知度	17
(4) 行政が力を入れるべき社会貢献活動支援	18
(5) 社会貢献活動と行政の協力・連携に関する考え	19

---

5	とちぎの元気な森づくり県民税について	
(1)	重要と考える森林の働き	20
(2)	「とちぎの元気な森づくり県民税」の認知度	21
(3)	「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して行うべき取組	22
6	県内の生物多様性保全に関する県民意識について	
(1)	自然についての関心	23
(2)	「生物多様性」の認知度	24
(3)	生物多様性保全の取組に対する考え	25
(4)	生物多様性配慮のために取り組んでいること	26
(5)	生物多様性配慮のために取り組みたいこと	27
7	在宅医療に関する県民意識について	
(1)	在宅療養への考え	28
(1-1)	在宅療養実現に対する考え	29
(1-1-1)	在宅療養が難しい理由	30
(1-2)	在宅療養を希望しない理由	31
(2)	訪問看護サービスの認知	32
8	犯罪と治安対策について	
(1)	交番等の警察官に特に力を入れてほしい活動	33
(2)	高齢者の交通事故防止のために必要な対策	34
(3)	飲酒運転根絶のために必要な対策	35
(4)	事故防止に役立っていると感じる施策	36
(5)	県内の治安状況	37
(6)	不安を感じる犯罪	38

## 調査の概要

### 1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

### 2 調査項目

- (1) 暮らしの変化について\*
  - (2) 県政への要望について\*
  - (3) 行財政改革について
  - (4) ボランティア・NPO等による社会貢献活動について
  - (5) とちぎの元気な森づくり県民税について
  - (6) 県内の生物多様性保全に関する県民意識について
  - (7) 在宅医療に関する県民意識について
  - (8) 犯罪と治安対策について
- ( \*印は時系列調査)

### 3 調査設計

- (1) 調査地域 栃木県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法(郵送配布・郵送回収)
- (6) 調査時期 平成22年5月17日～6月8日

### 4 調査機関

株式会社エスピー研

### 5 回収結果

回収数(率) 1,290(64.5%)

### 6 報告書の見方

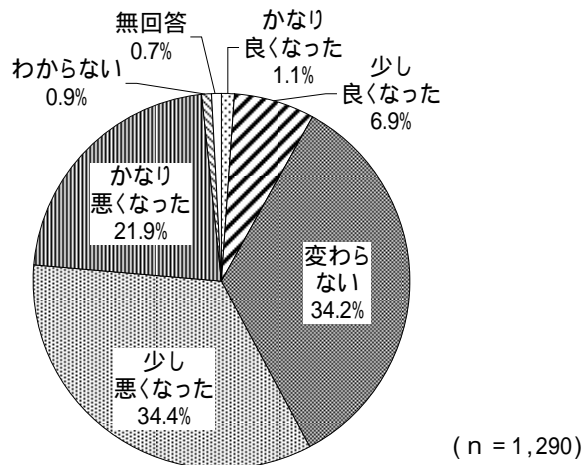
- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。

## 調査の結果

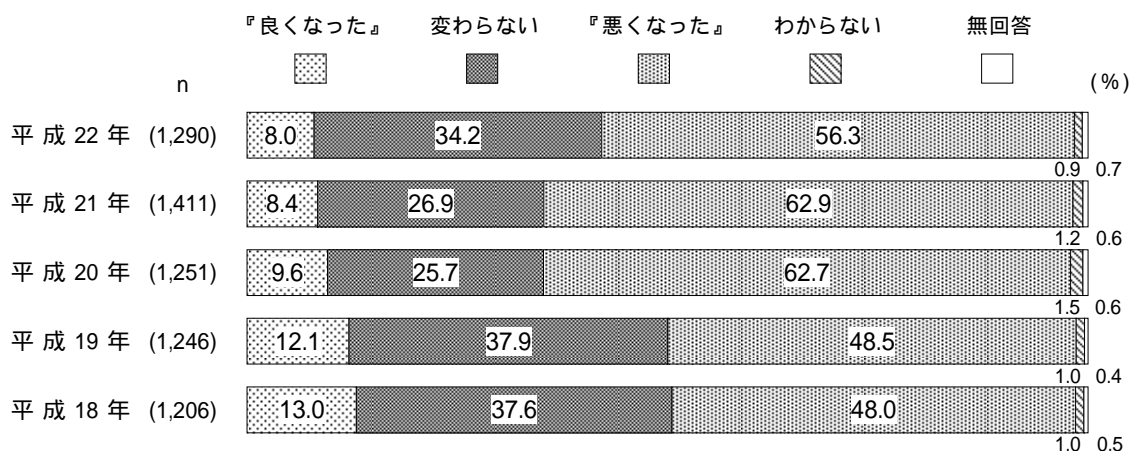
### 1 暮らしの変化について

#### (1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]



- 全体で見ると、「かなり良くなった」(1.1%)と「少し良くなった」(6.9%)の2つを合わせた『良くなった』(8.0%)は1割未満となっている。一方、「少し悪くなった」(34.4%)と「かなり悪くなった」(21.9%)の2つを合わせた『悪くなった』(56.3%)は5割半ばとなっている。
- 性別で見ると、「かなり悪くなった」では男性(25.3%)が女性(19.0%)より6.3ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- 性/年齢別で見ると、『良くなった』では男性20歳代(15.9%)と女性20歳代(16.4%)が他の世代と比べて高くなっている。一方、『悪くなった』では男性60～64歳(72.7%)と男性50歳代(70.7%)が7割以上と高くなっている。

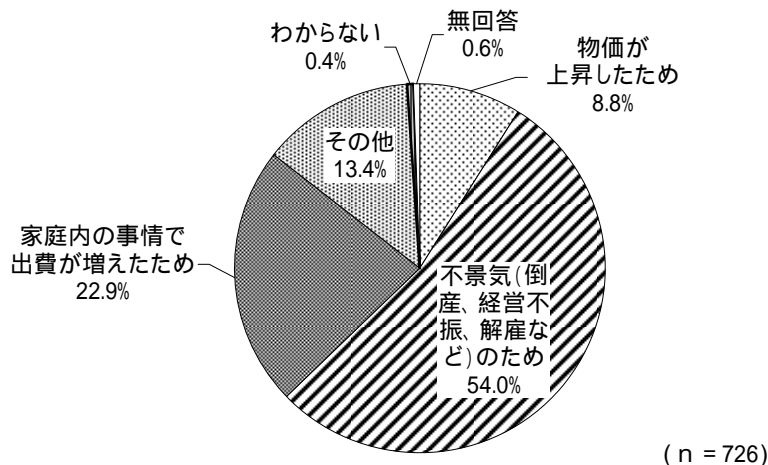


- 過去の調査結果と比較すると、『良くなった』は平成18年から減少傾向となっている。一方、『悪くなった』は平成18年から増加傾向にあったが、前回(平成21年)より6.6ポイント低くなっている。

## ( 1 - 1 ) 暮らしが悪くなった理由

( 問 1 で選択肢「少し悪くなった」「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください )

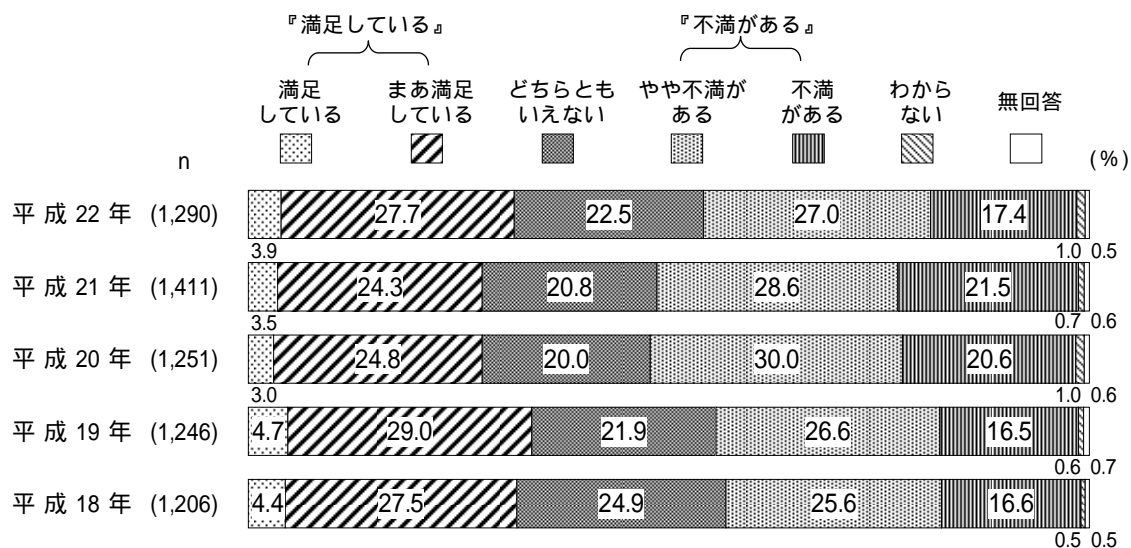
問 1 - 1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな原因を  
1つ選んでください。 [ n = 726 ]



- ・ 全体で見ると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(54.0%)が5割半ばと最も高く、次いで「家庭内の事情で出費が増えたため」(22.9%)、「物価が上昇したため」(8.8%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では 男性 (60.7%) が 女性 (48.1%) より 12.6 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では 男性の 20 歳代から 50 歳代までの年代 と 女性 50 歳代 が 6 割以上と高く、「家庭内の事情で出費が増えたため」では 女性 40 歳代 が 36.5% と高くなっている。

## (2) 暮らしの満足度

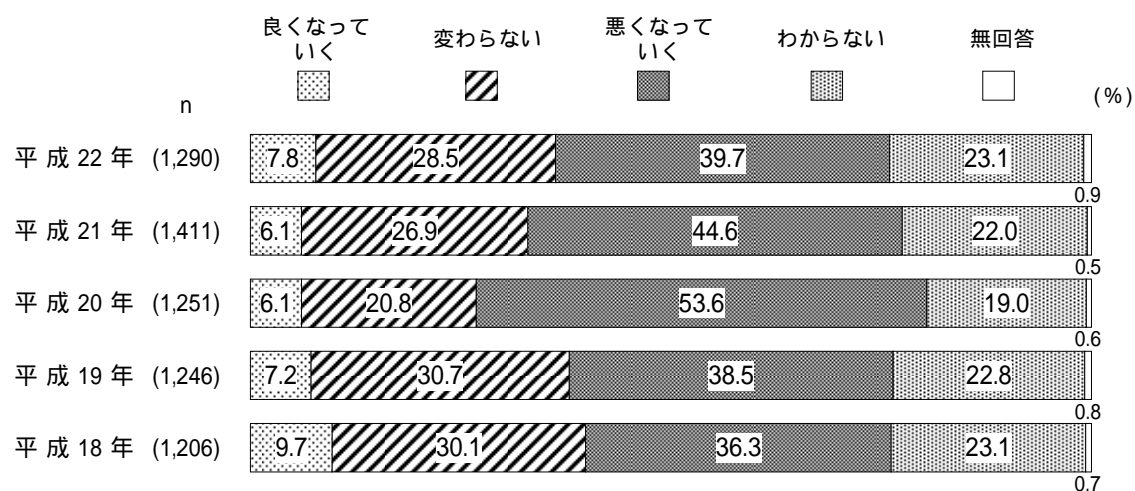
問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「満足している」(3.9%)と「まあ満足している」(27.7%)の2つを合わせた『満足している』(31.6%)は3割を超えている。一方、「やや不満がある」(27.0%)と「不満がある」(17.4%)の2つを合わせた『不満がある』(44.4%)は4割半ばとなっている。
- ・ 性別で見ると、『満足している』では 女性 (34.8%)が 男性 (27.6%)より7.2ポイント高くなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、『満足している』では 男性20歳代(40.9%)と女性20歳代(42.6%)、女性70歳以上(43.4%)が4割以上と高く、『不満がある』では 男性50歳代が56.1%と最も高くなっている。
- ・ 過去の調査結果と比較すると、『満足している』は前回(平成21年)より3.8ポイント高くなっている。一方、『不満がある』は5.7ポイント低くなっている。

### (3) 今後の暮らしの状況

問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]

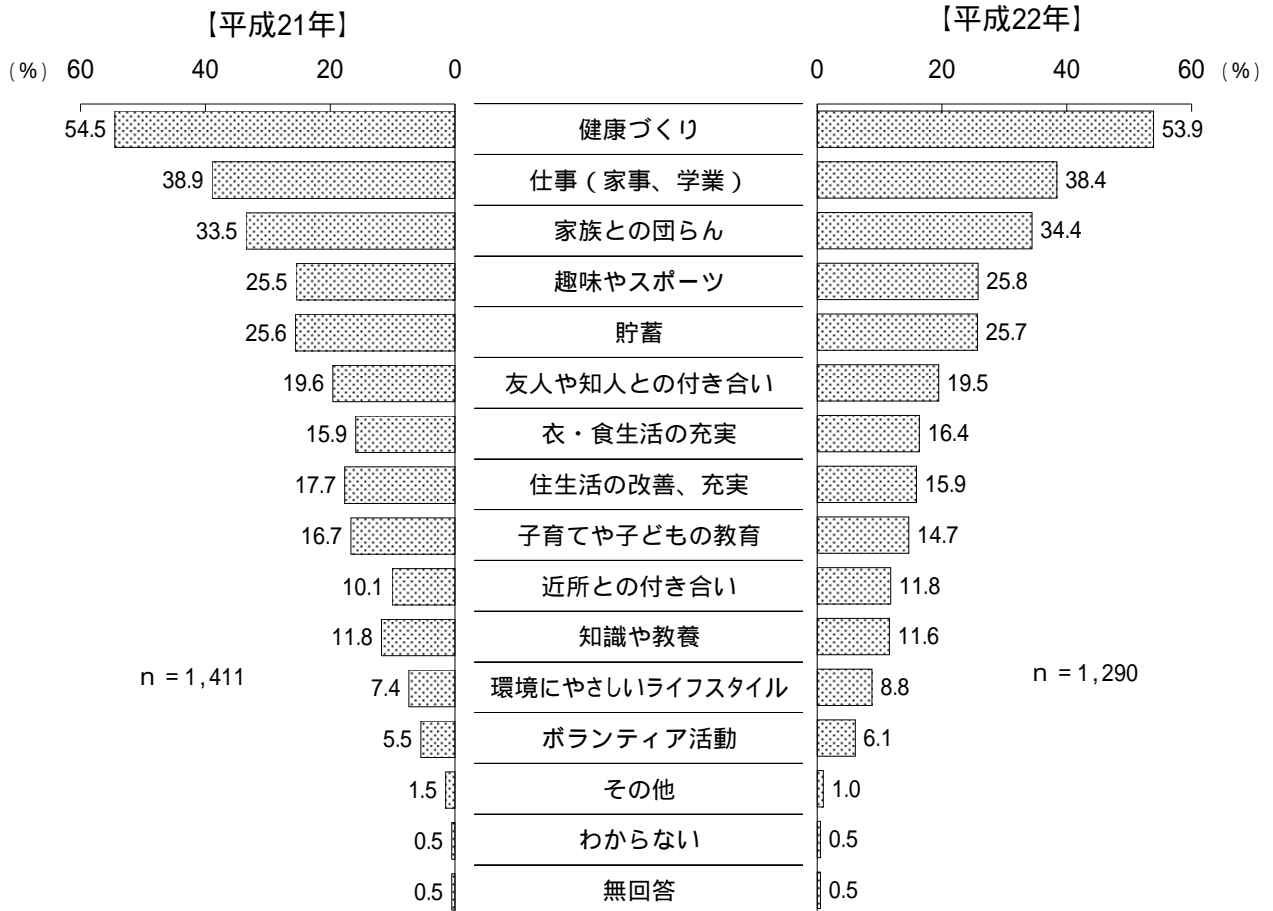


- 全体で見ると、「良くなっていく」(7.8%)は1割に満たない。一方、「悪くなっていく」(39.7%)が4割となっている。
- 性別で見ると、「悪くなっていく」では 男性 (43.4%)が 女性 (36.4%)より7.0ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では 男性20歳代 が29.5%と最も高くなっている。一方、「悪くなっていく」では 男性50歳代 (52.0%)、 男性60~64歳 (50.0%)、 女性60~64歳 (50.0%)が5割以上と高くなっている。
- 過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」は前回(平成21年)よりも4.9ポイント減少している。



(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。  
次の中から3つまで選んでください。 [ n = 1,290 ]



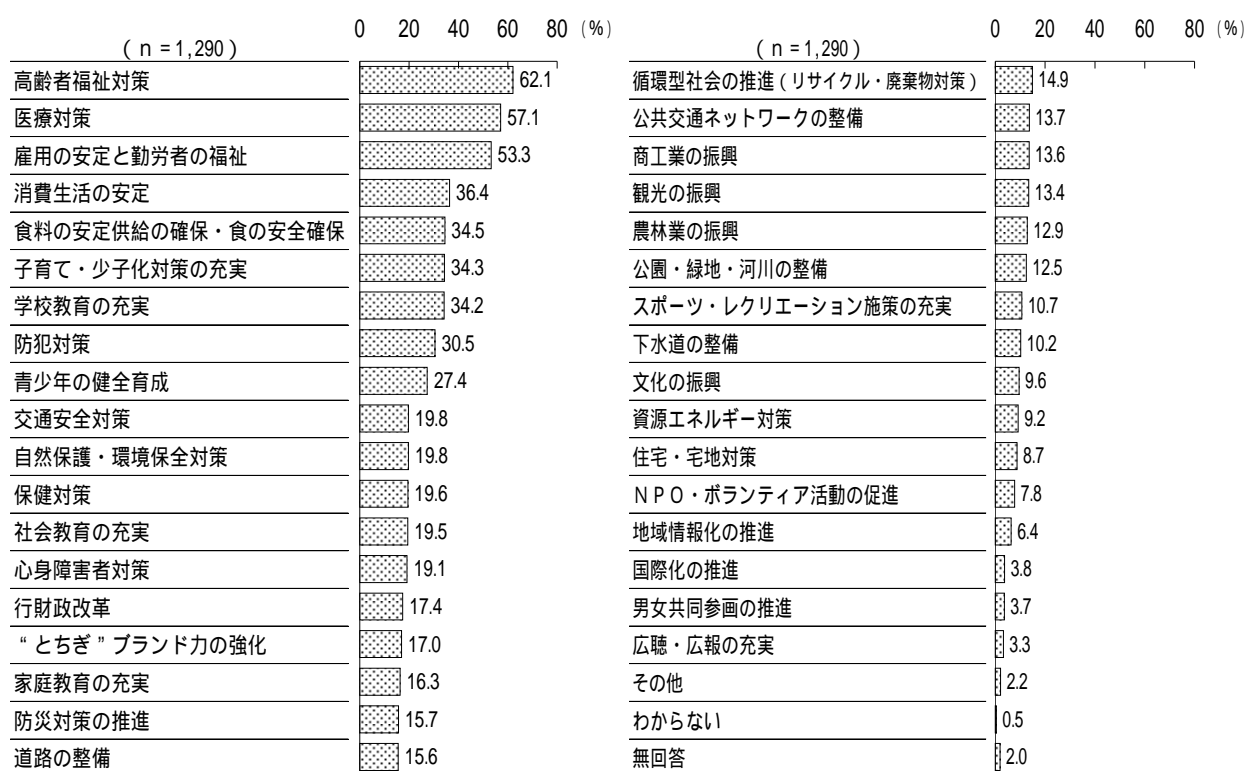
- ・ 全体で見ると、「健康づくり」(53.9%)が5割を超え最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(38.4%)、「家族との団らん」(34.4%)、「趣味やスポーツ」(25.8%)、「貯蓄」(25.7%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「趣味やスポーツ」では男性(31.5%)が女性(21.4%)より10.1ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「健康づくり」では男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男女ともに60歳以上の年代で7割以上と高くなっている。また、「仕事(家事、学業)」では男性20歳代(75.0%)と女性20歳代(80.3%)で高く、「貯蓄」では女性30歳代(53.6%)と女性40歳代(49.2%)が5割前後と高くなっている。

## 2 県政への要望について

### (1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”づくり」をめざしていろいろな仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「高齢者福祉対策」（62.1%）と「医療対策」（57.1%）、「雇用の安定と勤労者の福祉」（53.3%）の3項目が特に高く、次いで「消費生活の安定」（36.4%）、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」（34.5%）、「子育て・少子化対策の充実」（34.3%）、「学校教育の充実」（34.2%）、「防犯対策」（30.5%）の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では 女性（39.7%）が 男性（28.5%）より 11.2ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では 女性70歳以上 が87.8%、「医療対策」では 女性30歳代 が70.1%、「雇用の安定と勤労者の福祉」では 女性50歳代 が65.0%と最も高くなっている。また、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では 女性60～64歳（60.0%）と 女性65～69歳（56.9%）が6割前後と高く、「子育て・少子化対策の充実」では 女性30歳代 が72.2%、「学校教育の充実」では 女性30歳代 が59.8%と最も高くなっている。

(上位5項目)

順位 年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
平成22年	高齢者福祉対策 62.1%	医療対策 57.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 53.3%	消費生活の安定 36.4%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 34.5%
平成21年	医療対策 65.1%	高齢者福祉対策 62.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 47.3%	消費生活の安定 41.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.5%
平成20年	高齢者福祉対策 62.9%	医療対策 60.7%	消費生活の安定 44.3%	食料の安定供給の確保 41.6%	防犯対策 39.2%
平成19年	高齢者福祉対策 62.6%	医療対策 57.6%	防犯対策 36.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.8%	学校教育の充実 35.6%
平成18年	高齢者福祉対策 55.2%	医療対策 51.4%	防犯対策 40.3%	子育て・少子化対策の充実 37.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.8%
平成17年	高齢者福祉対策 56.3%	医療対策 51.0%	防犯対策 43.6%	青少年の健全育成 37.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.6%
平成16年	高齢者福祉対策 55.1%	医療対策 45.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.7%	防犯対策 35.9%	青少年の健全育成 34.3%
平成15年	高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 46.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.5%	青少年の健全育成 / 防犯対策 34.1%	
平成14年	高齢者福祉対策 57.1%	医療対策 48.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	青少年の健全育成 34.5%	廃棄物の処理対策 32.7%
平成13年	高齢者福祉対策 51.7%	青少年の健全育成 43.6%	廃棄物の処理対策 42.0%	医療対策 39.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.2%
平成12年	老人福祉対策 41.5%	青少年の健全育成 39.3%	廃棄物の処理対策 34.1%	学校教育の充実 34.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 31.3%
平成11年	老人福祉対策 46.5%	廃棄物の処理対策 42.8%	医療対策 39.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.1%	青少年の健全育成 35.5%
平成10年	老人福祉対策 47.3%	医療対策 39.2%	物価対策 34.2%	廃棄物の処理対策 33.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 29.5%
平成9年	老人福祉対策 48.2%	医療対策 41.0%	廃棄物の処理対策 30.1%	下水道の整備 26.7%	学校教育の充実 25.0%
平成8年	老人福祉対策 48.1%	医療対策 35.5%	下水道の整備 32.9%	廃棄物の処理対策 29.8%	道路の整備 23.8%

平成12年まで「高齢者福祉対策」は「老人福祉対策」

平成12年まで「消費生活の安定」は「消費者保護対策」

平成20年まで「食料の安定供給の確保・食の安全確保」は「食料の安定供給の確保」であり、

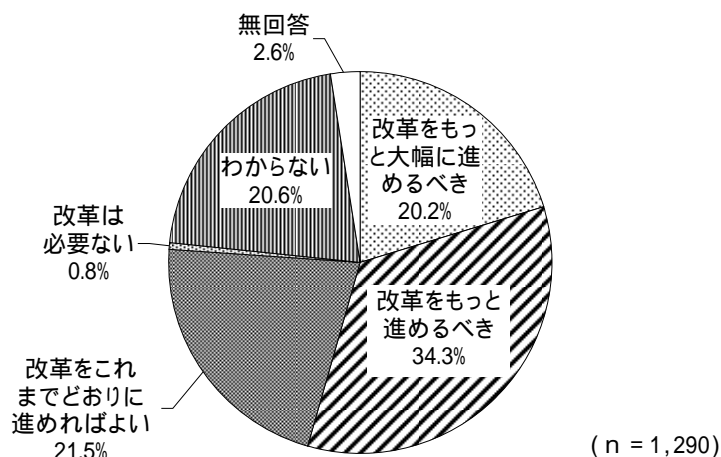
平成13年より加わった選択肢である。

- ・ 上位5項目を過去の調査結果と比較すると、昨年2位であった「高齢者福祉対策」が1位、昨年1位であった「医療対策」が2位となり、平成14年から「高齢者福祉対策」と「医療対策」が1位及び2位を占めている。また、3位から5位は、前年と同じ順位になっている。

### 3 行財政改革について

#### (1) 行財政改革についての考え

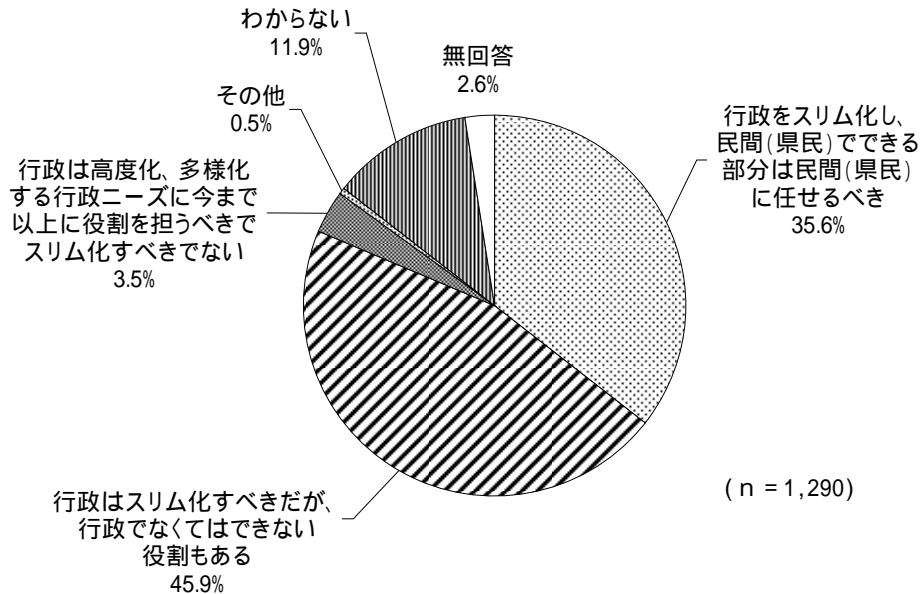
問6 県では、効果的かつ効率的にサービスを提供していくため、様々な行財政改革に取り組んできていますが、あなたは、県の行財政改革についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「改革をもっと進めるべき」(34.3%)が3割半ばと最も高く、次いで「改革をこれまでどおりに進めればよい」(21.5%)、「改革をもっと大幅に進めるべき」(20.2%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「改革をもっと大幅に進めるべき」では男性(25.8%)が女性(15.2%)より10.6ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「改革をもっと大幅に進めるべき」では男性60~64歳が40.9%、「改革をもっと進めるべき」では男性50歳代(43.1%)と女性30歳代(41.2%)が4割以上と高くなっている。

## (2) 行政と民間との役割分担についての考え

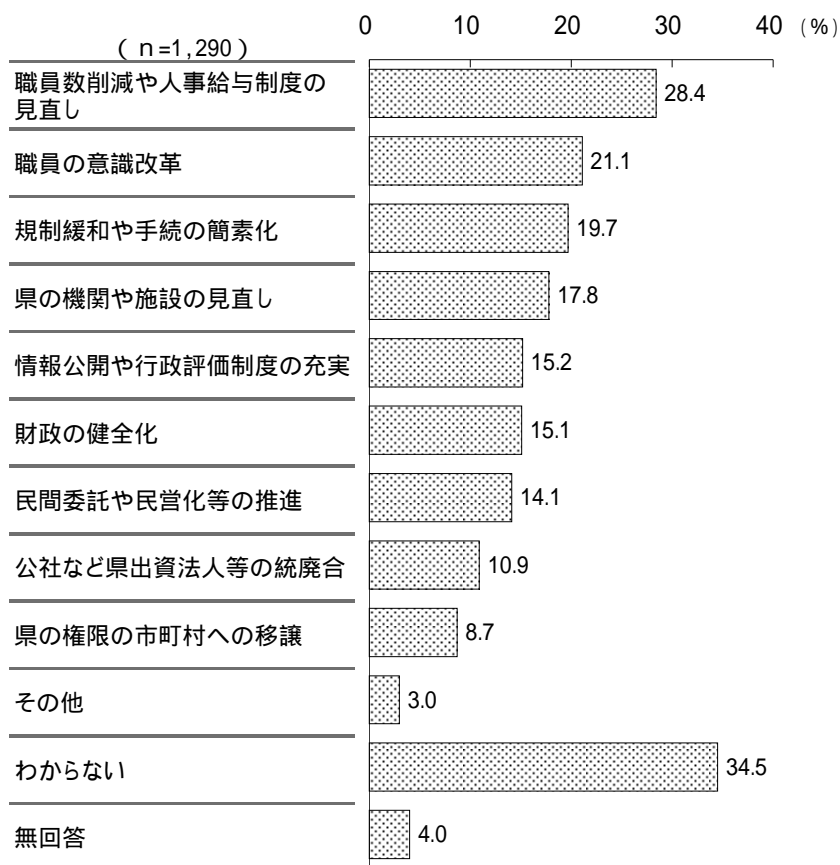
問7 行政と民間（県民）との役割分担について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「行政はスリム化すべきだが、行政でなくてはできない役割もある」（45.9%）が4割半ばと最も高く、次いで「行政をスリム化し、民間（県民）でできる部分は民間（県民）に任せるべき」（35.6%）が3割半ばとなっている。
- ・ 性別で見ると、「わからない」では 女性（15.3%）が 男性（7.4%）より7.9ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「行政をスリム化し、民間（県民）でできる部分は民間（県民）に任せるべき」では 女性40歳代 が44.1%と最も高くなっている。

### (3) 評価する行財政改革の取組

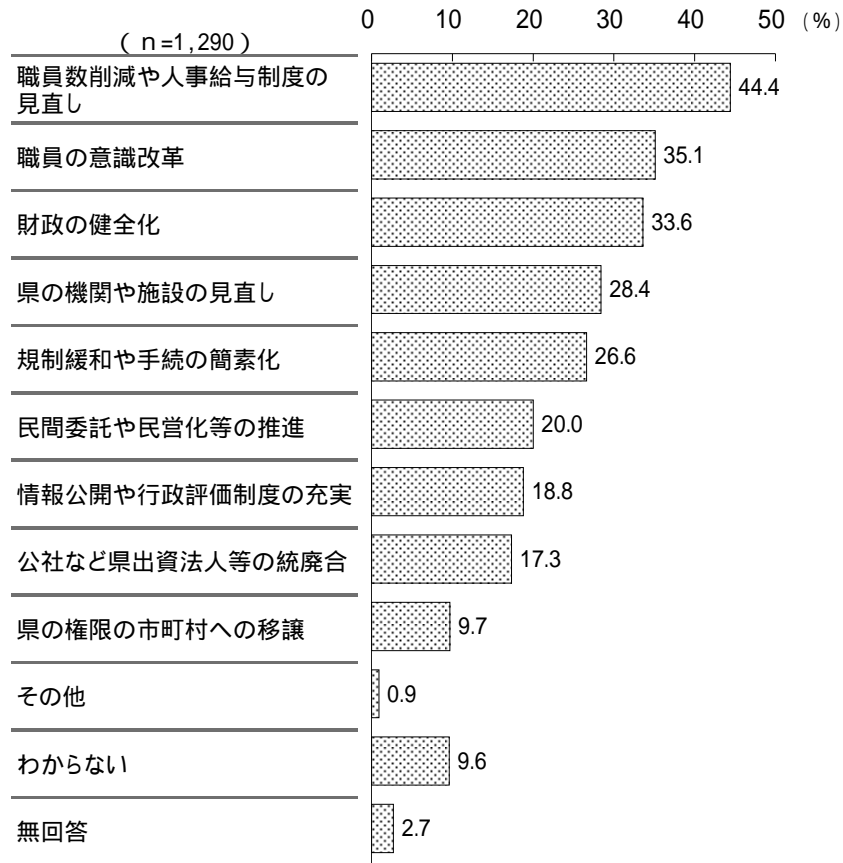
問8 これまでの県の行財政改革の取組の中で、あなたが評価するものはどれですか。  
次の中からいくつでも選んでください。 [ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「職員数削減や人事給与制度の見直し」(28.4%)と「職員の意識改革」(21.1%)が2割以上となっており、職員に関する項目が高く、次いで「規制緩和や手続の簡素化」(19.7%)、「県の機関や施設の見直し」(17.8%)、「情報公開や行政評価制度の充実」(15.2%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「わからない」では 女性 (39.7%)が 男性 (28.8%)より10.9ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「職員数削減や人事給与制度の見直し」では 女性65～69歳 (41.4%)、男性60～64歳 (40.9%)、男性70歳以上 (39.4%)で4割前後と高くなっている。また、男性70歳以上では「職員の意識改革」が34.6%、「規制緩和や手続の簡素化」が29.8%と他の年代と比べて最も高くなっている。

(4) 今後力を入れるべき行財政改革の取組

問9 あなたは、今後の行財政改革では、特にどのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [ n = 1,290 ]



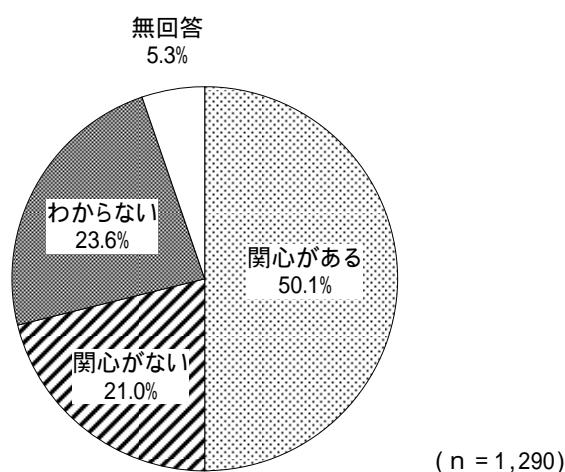
- ・ 全体で見ると、「職員数削減や人事給与制度の見直し」(44.4%)が4割半ば、「職員の意識改革」(35.1%)が3割半ばと、職員に関する項目が高く、次いで「財政の健全化」(33.6%)、「県の機関や施設の見直し」(28.4%)、「規制緩和や手続の簡素化」(26.6%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「財政の健全化」では 男性 (38.8%)が 女性 (28.9%)より 9.9 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「職員数削減や人事給与制度の見直し」では 男性 50 歳代 (53.7%)と 男性 65~69 歳 (52.2%)で 5 割以上と高く、「財政の健全化」では 男性 70 歳以上が 45.2%と最も高くなっている。

## 4 ボランティア・NPO等による社会貢献活動について

### (1) 社会貢献活動への関心

問 10 あなたは、社会貢献活動( )に関心がありますか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]

社会貢献活動とは、非営利で不特定多数の利益のために自発的に行う活動のことです。例えば、ボランティアやNPO(民間非営利団体)の活動、コミュニティ活動、自治会・育成会等の地域活動等があります。

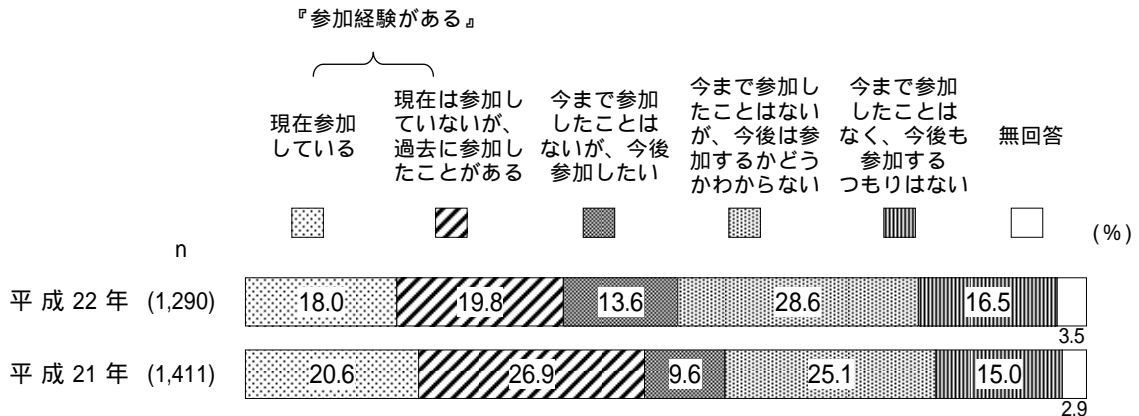


- ・ 全体で見ると、「関心がある」(50.1%)が過半数を占めている。また、「関心がない」(21.0%)と「わからない」(23.6%)が2割台となっている。
- ・ 性別で見ると、「わからない」では 女性 (26.7%) が 男性 (20.4%) より 6.3 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「関心がある」では 男性 65~69 歳 (70.1%) が 7 割、 男性 60~64 歳 (63.6%) が 6 割を超え高くなっている。



## (2) 社会貢献活動への参加状況

問 11 あなたは、社会貢献活動に参加したことがありますか。また、今後参加したいと  
 思いますか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]

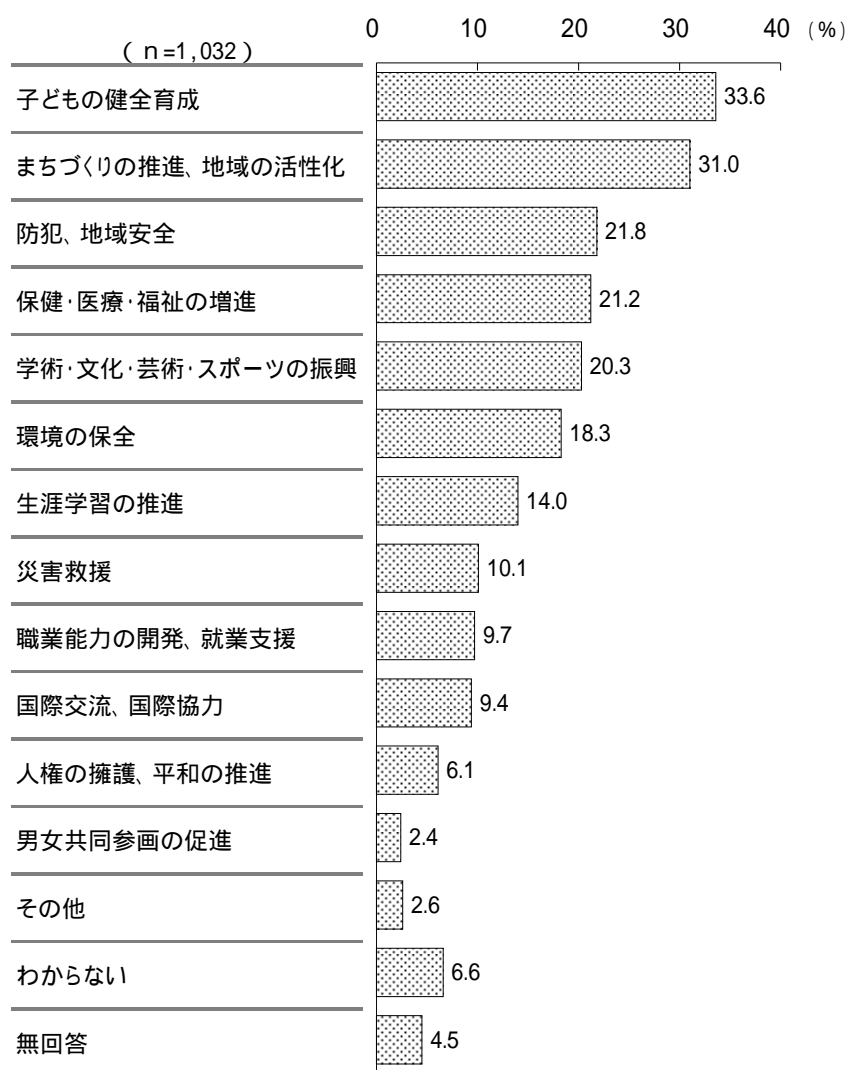


- ・ 全体で見ると、「今まで参加したことはないが、今後は参加するかどうか分からない」(28.6%) が3割近くと最も高くなっている。また、「現在参加している」(18.0%)と「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」(19.8%)を合わせた『参加経験がある』(37.8%)が4割近くとなっている。
- ・ 性別で見ると、「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」では 女性 (23.2%) が 男性 (16.3%)より6.9ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「現在参加している」では 男性 65~69歳 が29.9%と最も高く、「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」を合わせた『参加経験がある』では 男性 65~69歳 (53.8%)、女性 40歳代 (50.9%)が5割以上と高くなっている。また、「今まで参加したことはないが、今後は参加するかどうか分からない」では 女性 20歳代 (44.3%)と 男性 30歳代 (43.4%)が4割以上、「今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」では 女性 70歳以上 (30.4%)と 男性 20歳代 (29.5%)が3割前後と高くなっている。
- ・ 過去の調査結果と比較すると、「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」では 前回(平成21年)より7.1ポイント低く、「現在参加している」を合わせた『参加経験がある』でも9.7ポイント低くなっている。

## ( 2 - 1 ) 参加している社会貢献活動の分野

( 問 11 で選択肢「現在参加している」～「今まで参加したことはないが、今後は参加するかどうかわからない」のいずれかを選んだ方のみお答えください)

問 11 - 1 あなたが参加している(過去に参加した、または将来参加してみたい)活動の分野はどれですか。次の中からいくつでも選んでください [ n = 1,032 ]

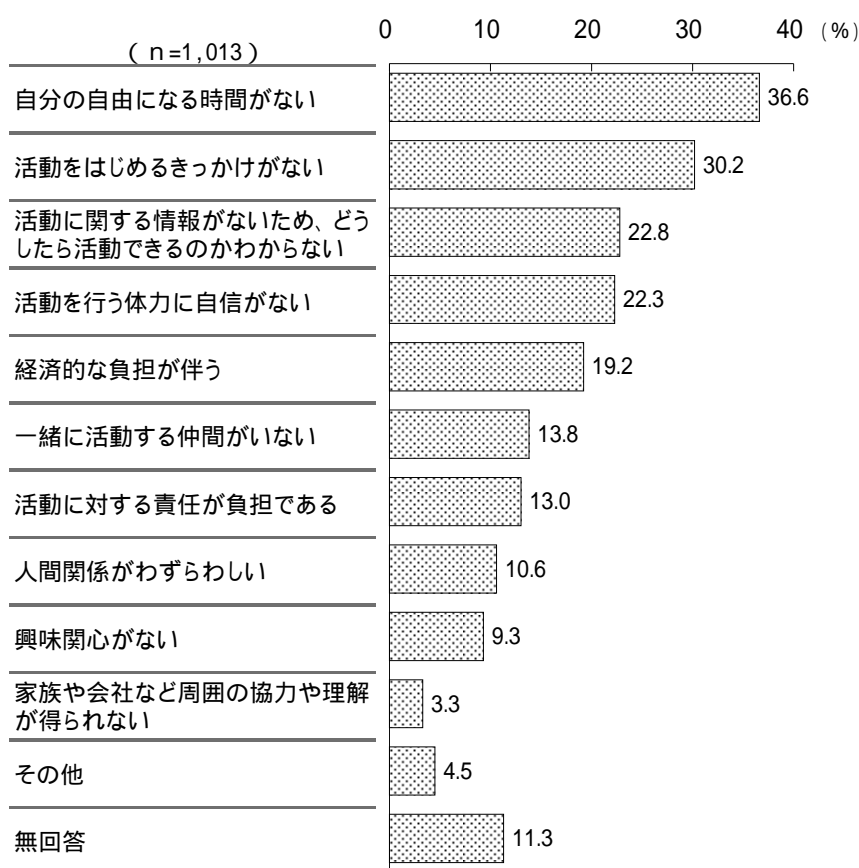


- ・ 全体で見ると、「子どもの健全育成」(33.6%)が3割を超え最も高く、次いで「まちづくりの推進、地域の活性化」(31.0%)、「防犯、地域安全」(21.8%)、「保健・医療・福祉の増進」(21.2%)、「学術・文化・芸術・スポーツの振興」(20.3%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「保健・医療・福祉の増進」では 女性 (27.0%) が 男性 (14.2%) より 12.8 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「子どもの健全育成」では 女性 40 歳代 が 49.0%、「まちづくりの推進、地域の活性化」では 男性 60~64 歳 (43.9%) と 男性 65~69 歳 (43.1%) で 4 割以上と高くなっている。また、「学術・文化・芸術・スポーツの振興」では 男性 20 歳代 が 46.7% と最も高くなっている。

## ( 2 - 2 ) 社会貢献活動へ参加しない理由

( 問 11 で選択肢「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」～「今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」のいずれかを選んだ方のみお答えください )

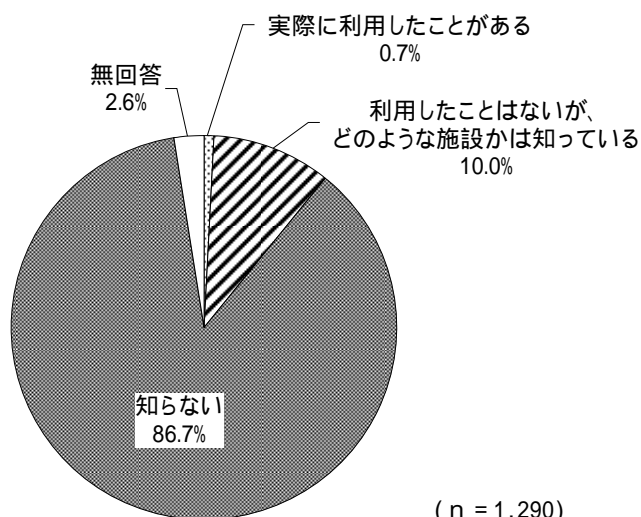
問 11 - 2 あなたが社会貢献活動に参加しない理由は何ですか。次の中から主な理由を3つまで選んでください。 [ n = 1,013 ]



- ・ 全体で見ると、「自分の自由になる時間がない」( 36.6% ) が 4 割近くと最も高く、次いで「活動をはじめのきっかけがない」( 30.2% )、「活動に関する情報がないため、どうしたら活動できるのかわからない」( 22.8% )、「活動を行う体力に自信がない」( 22.3% )、「経済的な負担が伴う」( 19.2% ) の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「活動をはじめのきっかけがない」では 男性 ( 33.7% ) が 女性 ( 28.1% ) より 5.6 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性 / 年齢別で見ると、「自分の自由になる時間がない」では男女ともに低い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に 男性 20 歳代 では 58.5% と最も高くなっている。一方、「活動を行う体力に自信がない」では男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性 70 歳以上 ( 50.7% ) と 女性 70 歳以上 ( 51.8% ) が 5 割以上と特に高くなっている。

### (3) 「とちぎボランティアNPOセンター」の認知度

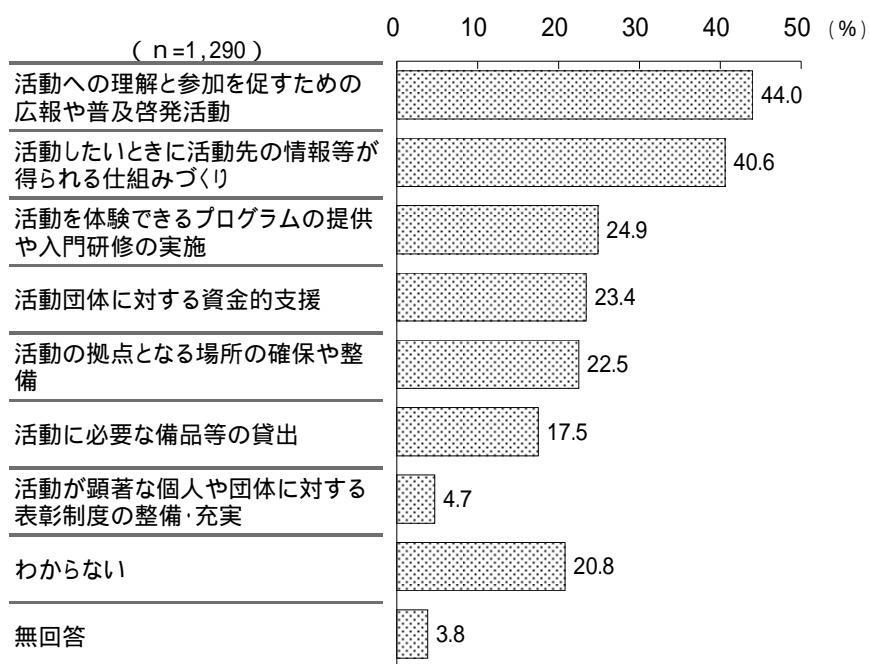
問 12 あなたは、県民の社会貢献活動の総合的な支援拠点として、県が平成 15 年に設置した「とちぎボランティアNPOセンター（愛称：ぼ・ぼ・ら）」を知っていますか。次の中から 1 つ選んでください。 [ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「知らない」（86.7%）が9割近くを占めている。また、「実際に利用したことがある」が0.7%、「利用したことはないが、どのような施設かは知っている」（10.0%）が1割程度となっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「利用したことはないが、どのような施設かは知っている」では 男性 65～69歳 が19.4%と最も高くなっている。一方、「知らない」では男女ともに低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男女ともに20歳代から40歳代までの年代で9割以上と高くなっている。

#### (4) 行政が力を入れるべき社会貢献活動支援

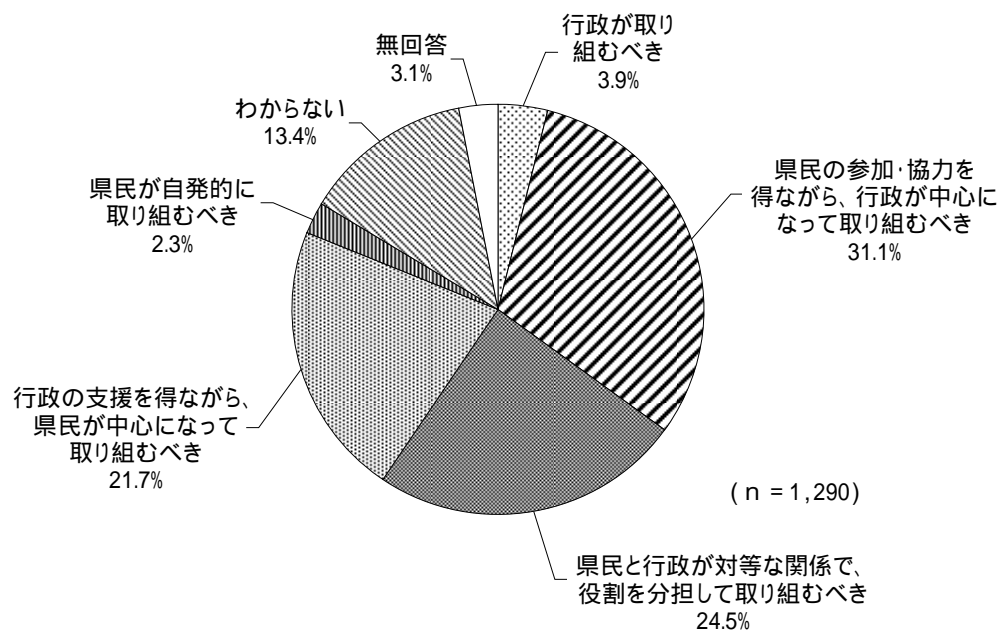
問 13 あなたは、ボランティアやNPO等による社会貢献活動を支援するため、行政は今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「活動への理解と参加を促すための広報や普及啓発活動」(44.0%)が4割半ばと最も高く、次いで「活動したいときに活動先の情報等が得られる仕組みづくり」(40.6%)、「活動を体験できるプログラムの提供や入門研修の実施」(24.9%)、「活動団体に対する資金的支援」(23.4%)、「活動の拠点となる場所の確保や整備」(22.5%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「活動の拠点となる場所の確保や整備」では男性(25.5%)が女性(19.9%)より5.6ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「活動への理解と参加を促すための広報や普及啓発活動」では女性20歳代が57.4%と最も高く、「活動したいときに活動先の情報等が得られる仕組みづくり」では女性30歳代が54.6%と最も高くなっている。

## ( 5 ) 社会貢献活動と行政の協力・連携に関する考え

問 14 県は、今後、地域の課題解決のためには、県民（住民やボランティア・NPO、企業等）が行う社会貢献活動と行政（県・市町）が協力・連携して取り組むことが必要になっていくと考えています。この考え方について、あなたは、どう思いますか。  
次の中から 1 つ選んでください。 [ n = 1,290 ]

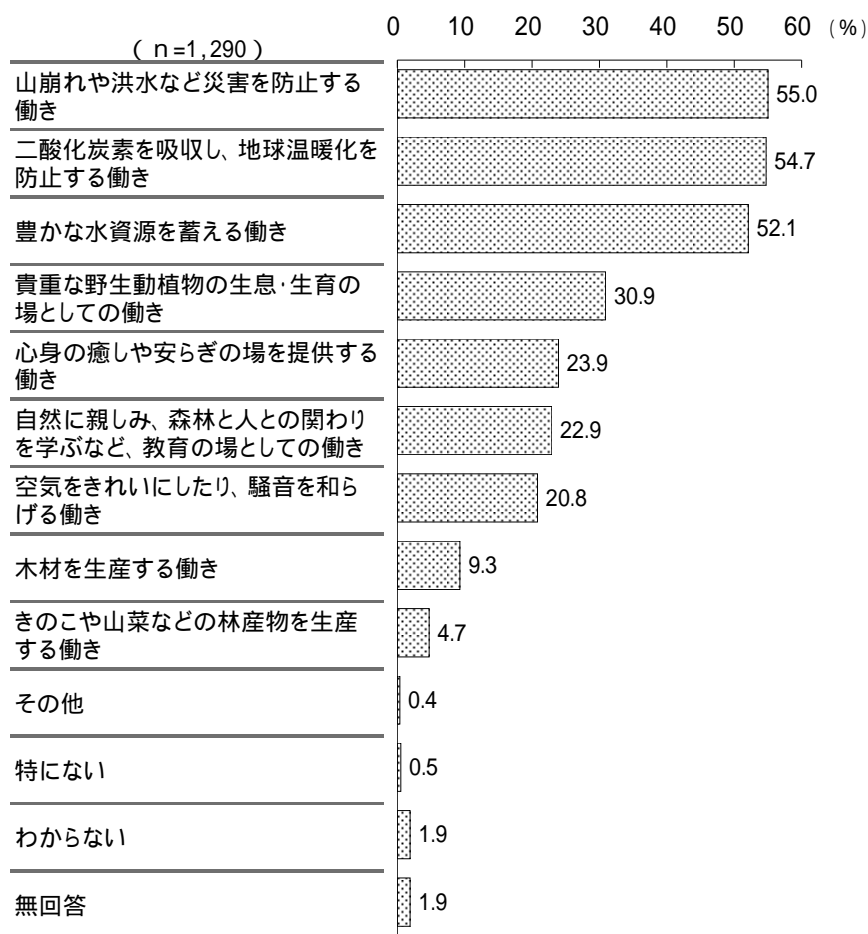


- ・ 全体で見ると、「県民の参加・協力を得ながら、行政が中心になって取り組むべき」（31.1%）が3割を超え最も高く、次いで「県民と行政が対等な関係で、役割を分担して取り組むべき」（24.5%）、「行政の支援を得ながら、県民が中心になって取り組むべき」（21.7%）の順となっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「県民と行政が対等な関係で、役割を分担して取り組むべき」では 男性 20 歳代（40.9%）と 女性 20 歳代（37.7%）で4割前後と高く、「行政の支援を得ながら、県民が中心になって取り組むべき」では 男性 65～69 歳 が 32.8%と最も高くなっている。また、「わからない」では 女性 70 歳以上 が 27.8%と最も高くなっている。

## 5 とちぎの元気な森づくり県民税について

### (1) 重要と考える森林の働き

問 15 森林には、木材を生産したり、水や空気を育んだり、土砂災害を防いだり、地球温暖化を防止するなど、様々な働きがあります。あなたが、特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [ n = 1,290 ]

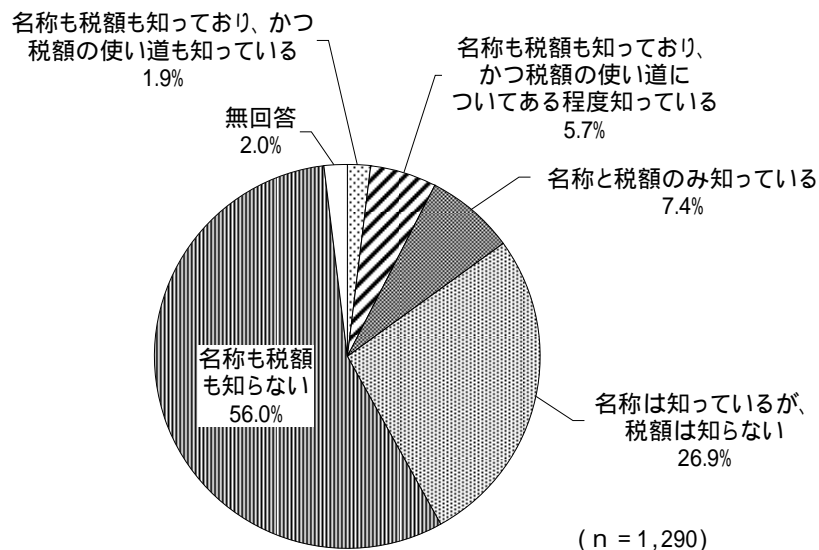


- ・ 全体でみると、「山崩れや洪水など災害を防止する働き」(55.0%)、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(54.7%)、「豊かな水資源を蓄える働き」(52.1%)が5割以上と高くなっている。次いで、「貴重な野生動植物の生息・生育の場としての働き」(30.9%)、「心身の癒しや安らぎの場を提供する働き」(23.9%)の順となっている。
- ・ 性別でみると、「豊かな水資源を蓄える働き」では 男性 (56.8%) が 女性 (47.8%) より 9.0 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別でみると、「豊かな水資源を蓄える働き」では 女性の 50 歳代以上の年代 で高い傾向にあり、 女性 65～69 歳 では 67.2% と最も高くなっている。また、「山崩れや洪水など災害を防止する働き」でも 女性の 50 歳代以上の年代 で 5 割を超え高い傾向にある。

(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の認知度

問 16 あなたは、平成 20 年 4 月から本県で導入している「とちぎの元気な森づくり県民税」いわゆる森林環境税を知っていますか。次の中から 1 つ選んでください。

[ n = 1,290 ]

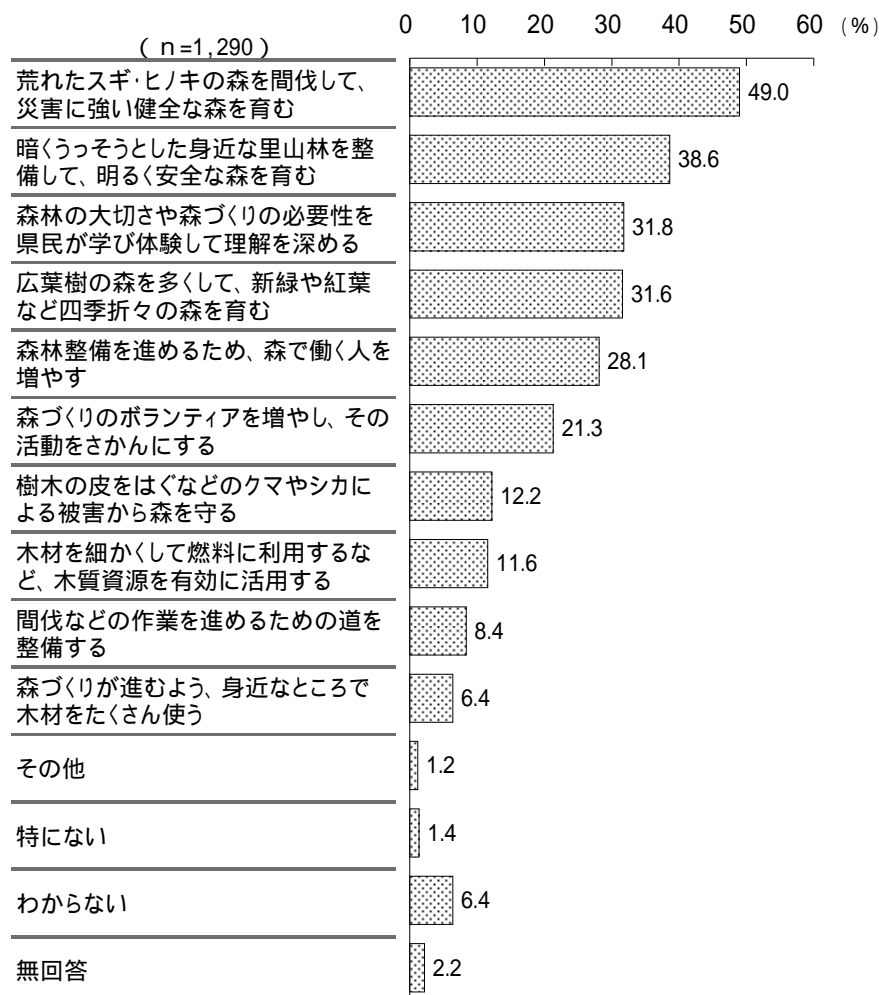


- ・ 全体で見ると、「名称も税額も知らない」（56.0%）が5割半ばと最も高く、次いで「名称は知っているが、税額は知らない」（26.9%）、「名称と税額のみ知っている」（7.4%）、「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道についてある程度知っている」（5.7%）、「名称も税額も知っており、かつ税額に使い道も知っている」（1.9%）の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「名称も税額も知らない」では 女性（59.4%）が 男性（51.5%）より 7.9 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道についてある程度知っている」では 男性 65～69 歳（13.4%）、男性 70 歳以上（12.5%）で1割を超え、「名称は知っているが、税額は知らない」では 女性 60～64 歳（40.0%）と 男性 65～69 歳（38.8%）で4割前後と高くなっている。また、「名称も税額も知らない」では男女ともに低い年代ほど比較的高い傾向にあり、特に 女性 30 歳代 が 77.3%と最も高くなっている。



(3) 「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して行うべき取組

問 17 あなたは、今後、「とちぎの元気な森づくり県民税」によって本県の森林をより良くしていく上で必要な取組はどれであると考えますか。次の中から3つまで選んでください。 [ n = 1,290 ]

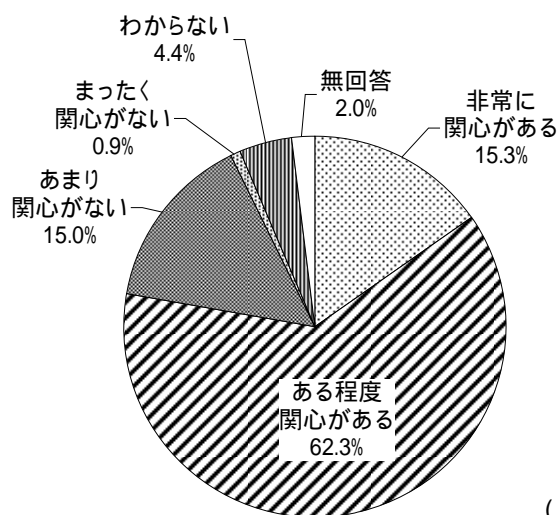


- ・ 全体で見ると、「荒れたスギ・ヒノキの森を間伐して、災害に強い健全な森を育む」(49.0%) がほぼ5割と最も高く、次いで「暗くうっそうとした身近な里山林を整備して、明るく安全な森を育む」(38.6%)、「森林の大切さや森づくりの必要性を県民が学び体験して理解を深める」(31.8%)、「広葉樹の森を多くして、新緑や紅葉など四季折々の森を育む」(31.6%)、「森林整備を進めるため、森で働く人を増やす」(28.1%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「森林整備を進めるため、森で働く人を増やす」では 男性 (31.8%) が 女性 (25.5%) より 6.3 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「荒れたスギ・ヒノキの森を間伐して、災害に強い健全な森を育む」では男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、 男性 70 歳以上 が 64.4% と最も高くなっている。また、「広葉樹の森を多くして、新緑や紅葉など四季折々の森を育む」では 男性 60 ~ 64 歳 が 45.5% と最も高く、「森林整備を進めるため、森で働く人を増やす」では 男性 70 歳以上 が 39.4% と最も高くなっている。

## 6 県内の生物多様性保全に関する県民意識について

### (1) 自然についての関心

問 18 あなたは、自然についてどの程度関心がありますか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]

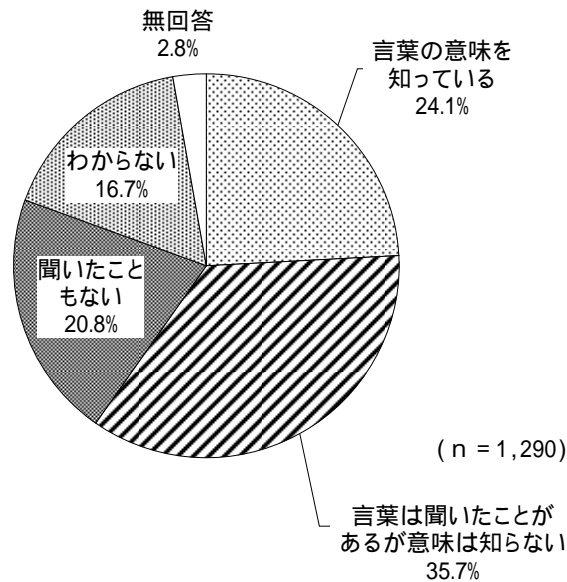


( n = 1,290 )

- ・ 全体で見ると、「非常に関心がある」(15.3%)と「ある程度関心がある」(62.3%)の2つを合わせた『関心がある』(77.6%)は8割近くとなっている。一方、「あまり関心がない」(15.0%)と「まったく関心がない」(0.9%)の2つを合わせた『関心がない』(15.9%)は1割半ばとなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「非常に関心がある」では 男性70歳以上 が24.0%と最も高く、「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある』では 男性65~69歳 が89.6%と最も高くなっている。一方、「あまり関心がない」では 男性30歳代 (26.3%)と 女性30歳代 (26.8%)で2割以上と他の年代と比べて高くなっている。

## (2) 「生物多様性」の認知度

問 19 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]

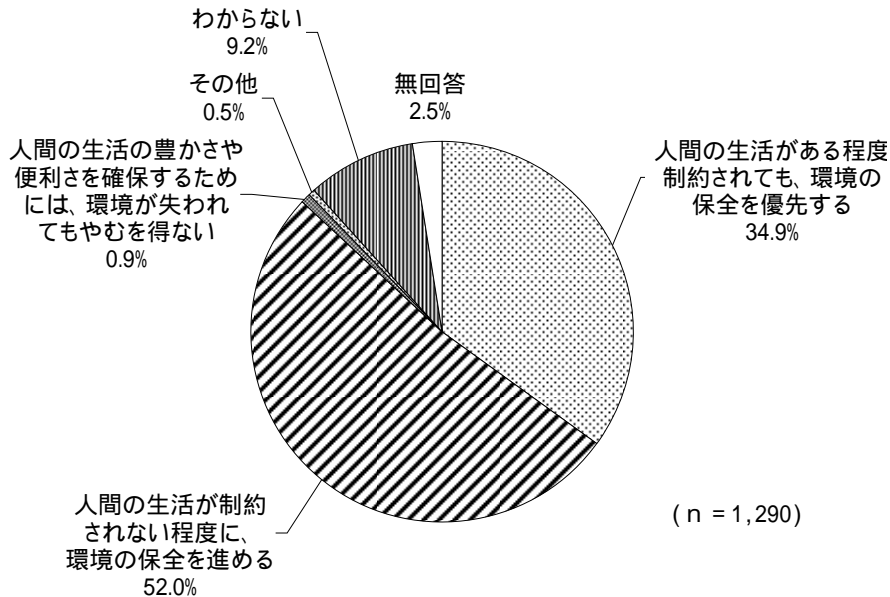


- ・ 全体で見ると、「言葉は聞いたことがあるが意味は知らない」(35.7%)、次いで「言葉の意味を知っている」(24.1%)、「聞いたこともない」(20.8%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「言葉の意味を知っている」では 男性 (28.6%) が 女性 (20.2%) より 8.4 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「言葉は聞いたことがあるが意味は知らない」では 女性 65~69 歳 が 50.0%、「聞いたこともない」では 女性 30 歳代 が 35.1%と最も高くなっている。

### (3) 生物多様性保全の取組に対する考え

問 20 生物多様性( )の保全のため、地球上のさまざまな生物やそれらが生息できる環境を守る取組が進められていますが、このことについて、あなたはどのように考えていますか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]

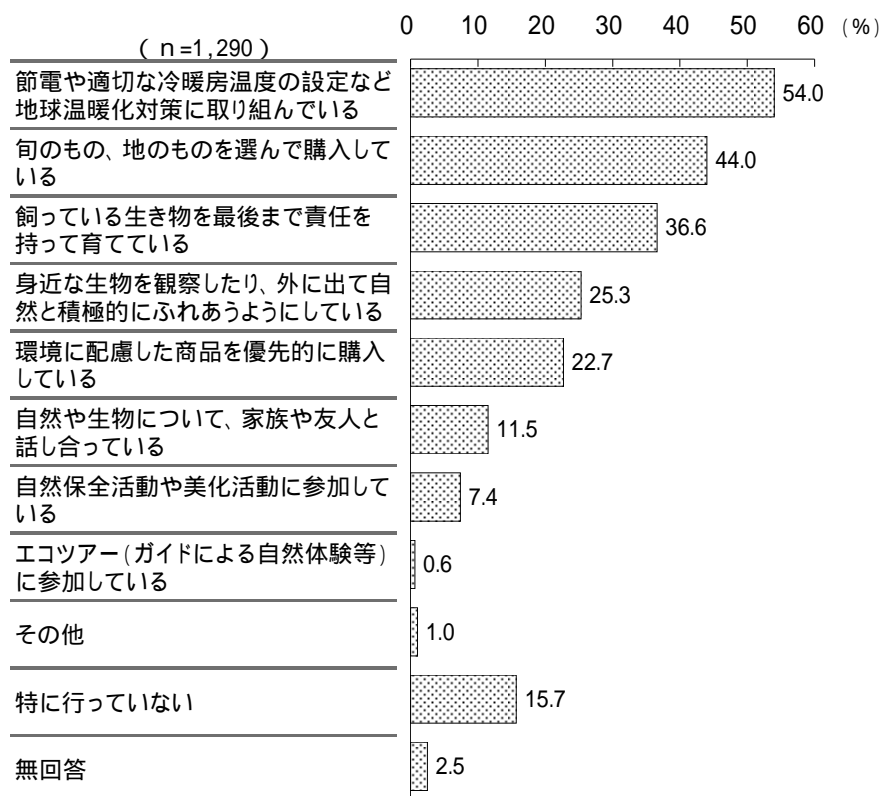
生物多様性とは、生態系、種、遺伝子がそれぞれバラエティに富んでいることを言います。



- ・ 全体で見ると、「人間の生活が制約されない程度に、環境の保全を進める」(52.0%)が5割を超え最も高く、次いで「人間の生活がある程度制約されても、環境の保全を優先する」(34.9%)が3割半ばとなっている。
- ・ 性別で見ると、「人間の生活がある程度制約されても、環境の保全を優先する」では 男性(39.4%)が 女性(31.1%)より8.3ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「人間の生活がある程度制約されても、環境の保全を優先する」では 男性20歳代(50.0%)と 男性40歳代(48.3%)が5割前後と高く、「人間の生活が制約されない程度に、環境の保全を進める」では 女性65~69歳が65.5%と最も高くなっている。

#### (4) 生物多様性配慮のために取り組んでいること

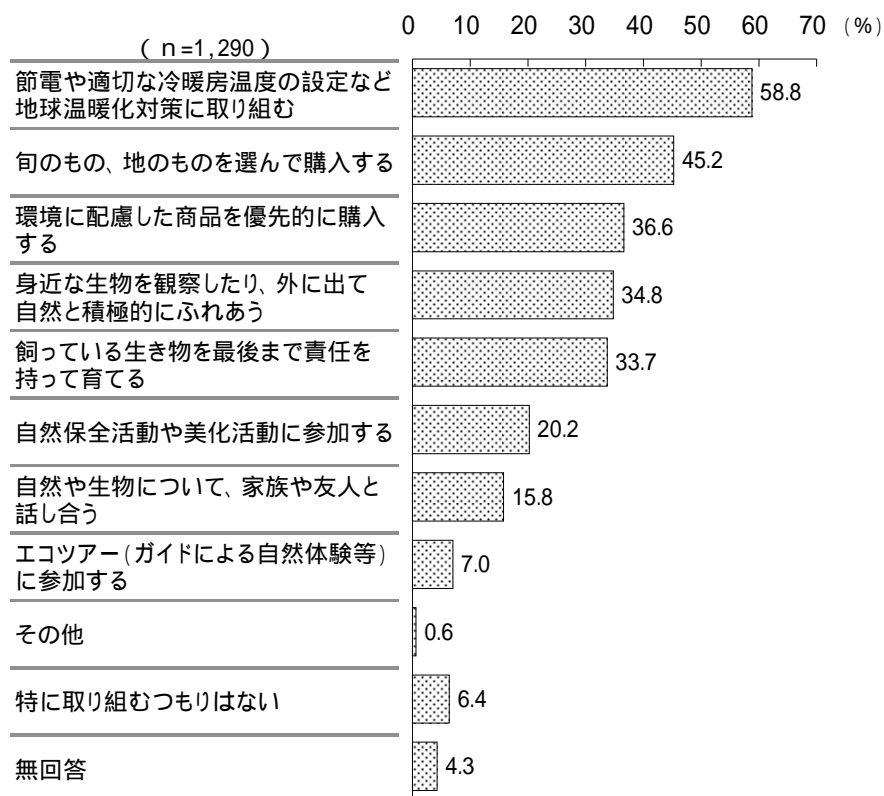
問 21 あなたは、生物多様性に配慮した生活のために、現在どのようなことに取り組んでいますか。次の中からいくつでも選んでください。 [ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んでいる」(54.0%)が5割半ばと最も高く、次いで「旬のもの、地のものを選んで購入している」(44.0%)、「飼っている生き物を最後まで責任を持って育てている」(36.6%)、「身近な生物を観察したり、外に出て自然と積極的にふれあうようにしている」(25.3%)、「環境に配慮した商品を優先的に購入している」(22.7%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「旬のもの、地のものを選んで購入している」では 女性 (52.2%) が 男性 (35.3%) より 16.9 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「旬のもの、地のものを選んで購入している」では 女性 60~64 歳 が 66.7%、「飼っている生き物を最後まで責任を持って育てている」では 女性 20 歳代 が 47.5% と最も高くなっている。

(5) 生物多様性配慮のために取り組みたいこと

問 22 あなたは、生物多様性に配慮した生活のために、今後どのようなことに取り組んでいきたいですか。次の中からいくつでも選んでください。 [ n = 1,290 ]

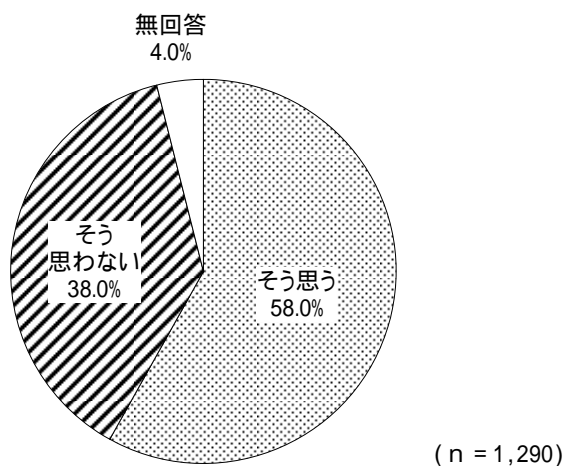


- ・ 全体で見ると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む」(58.8%)が6割近くと最も高く、次いで「旬のもの、地のものを選んで購入する」(45.2%)、「環境に配慮した商品を優先的に購入する」(36.6%)、「身近な生物を観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう」(34.8%)、「飼っている生き物を最後まで責任を持って育てる」(33.7%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「旬のもの、地のものを選んで購入する」では 女性 (53.2%)が 男性 (36.4%)より16.8ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む」では 女性60~64歳 (71.1%)と 女性30歳代 (69.1%)で7割前後と高く、「旬のもの、地のものを選んで購入する」では 女性の30歳代から65~69歳の年代で5割以上と高くなっている。また、「環境に配慮した商品を優先的に購入する」では 女性20歳代 が49.2%と最も高くなっている。

## 7 在宅医療に関する県民意識について

### (1) 在宅療養への考え

問 23 在宅医療についてうかがいます。あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。  
[ n = 1,290 ]



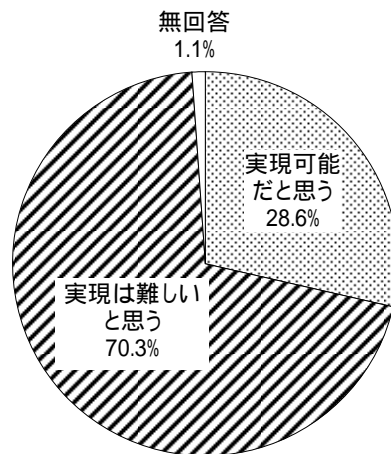
- ・ 全体で見ると、「そう思う」(58.0%)が6割近く、「そう思わない」(38.0%)が4割近くとなっている。
- ・ 性別で見ると、「そう思う」では 男性 (61.0%) が 女性 (55.3%) より 5.7 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「そう思う」では 男性 30 歳代 が 72.4% と最も高くなっている。一方、「そう思わない」では 女性 60~64 歳 が 47.8% と最も高くなっている。

### ( 1 - 1 ) 自宅療養実現に対する考え

( 問 23 で選択肢「そう思う」を選んだ方のみお答えください )

問 23 - 1 自宅での療養は実現可能だと思いますか。次の中から 1 つ選んでください。

[ n = 748 ]



( n = 748 )

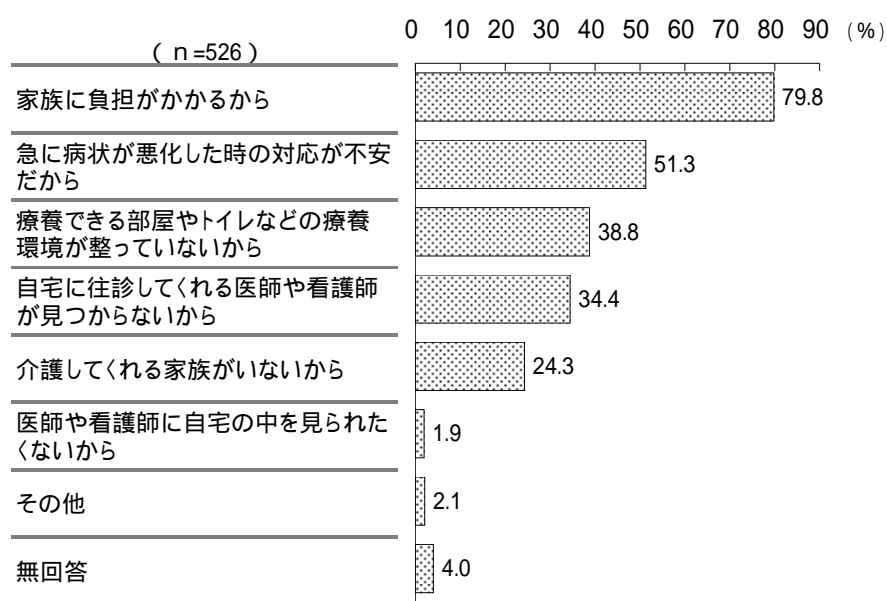
- ・ 全体で見ると、「実現は難しいと思う」(70.3%)が7割、「実現可能だと思ふ」(28.6%)が3割近くとなっている。
- ・ 性別で見ると、「実現は難しいと思う」では 女性 (76.8%)が 男性 (63.4%)より13.4ポイント高く、男女間の差が大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「実現可能だと思ふ」では 男性60~64歳 が45.7%と最も高くなっている。一方、「実現は難しいと思う」では 女性30歳代 (84.6%)と 女性50歳代 (83.1%)が8割以上と高く、また全ての年代で過半数を占めている。



( 1 - 1 - 1 ) 自宅療養が難しい理由

( 問 23 - 1 で選択肢「実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください )

問 23 - 1 - 1 自宅での療養が難しいと思う理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。 [ n = 526 ]

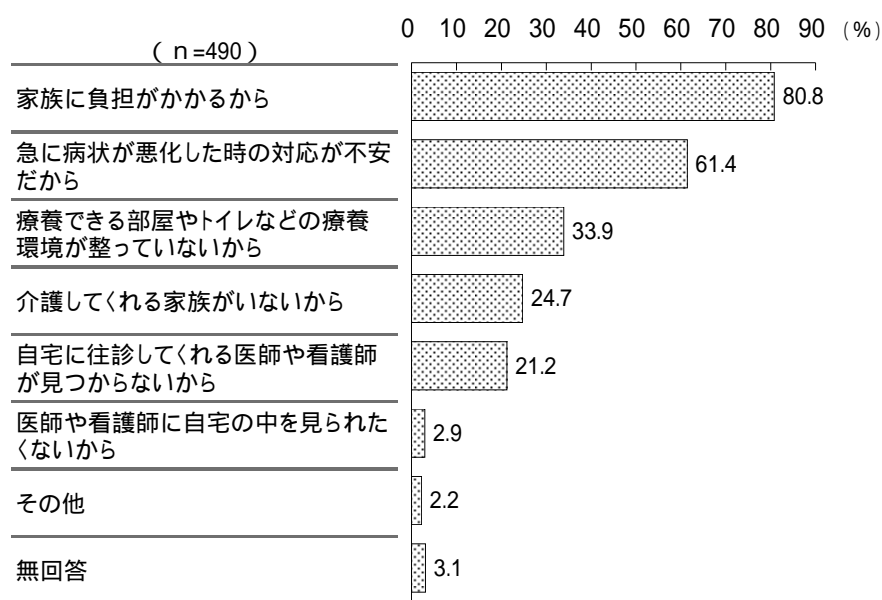


- ・ 全体で見ると、「家族に負担がかかるから」(79.8%)がほぼ8割と最も高く、次いで「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」(51.3%)、「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」(38.8%)、「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」(34.4%)、「介護してくれる家族がないから」(24.3%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「介護してくれる家族がないから」では 女性 (27.8%)が 男性 (18.2%)より9.6ポイント高く、男女間の差が大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」では 男性 70 歳以上 (74.4%)と 女性 70 歳以上 (70.7%)で7割以上と高く、「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」では女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性 20 歳代 が 57.7%と最も高くなっている。また、「介護してくれる家族がないから」では 女性 70 歳以上 が 46.3%と最も高くなっている。

( 1 - 2 ) 自宅療養を希望しない理由

( 問 23 で選択肢「そう思わない」を選んだ方のみお答えください)

問 23 - 2 自宅での療養を希望しない理由は何ですか。次の中から 3 つまで選んでください。 [ n = 490 ]

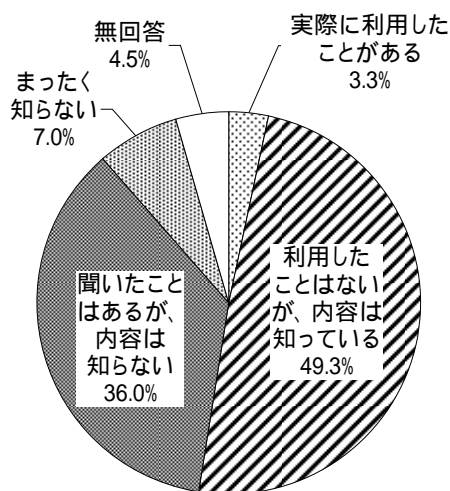


- ・ 全体でみると、「家族に負担がかかるから」(80.8%)がほぼ8割と最も高く、次いで「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」(61.4%)、「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」(33.9%)、「介護してくれる家族がないから」(24.7%)、「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」(21.2%)の順となっている。
- ・ 性別でみると、「介護してくれる家族がないから」では 女性 (28.3%)が 男性 (20.4%)より 7.9 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性 / 年齢別でみると、「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」では 男性 70 歳以上 が 83.8%、「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」では 女性 30 歳代 が 53.3%、「介護してくれる家族がないから」では 女性 65~69 歳 が 47.6%と、それぞれ最も高くなっている。

## ( 2 ) 訪問看護サービスの認知

問 24 在宅医療を支える仕組のひとつに訪問看護サービス( )がありますが、あなたはこのサービスを知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [ n = 1,290 ]

訪問看護サービスとは、看護師が医師の指示を受け、患者の自宅を訪問して行う看護サービスのことです。



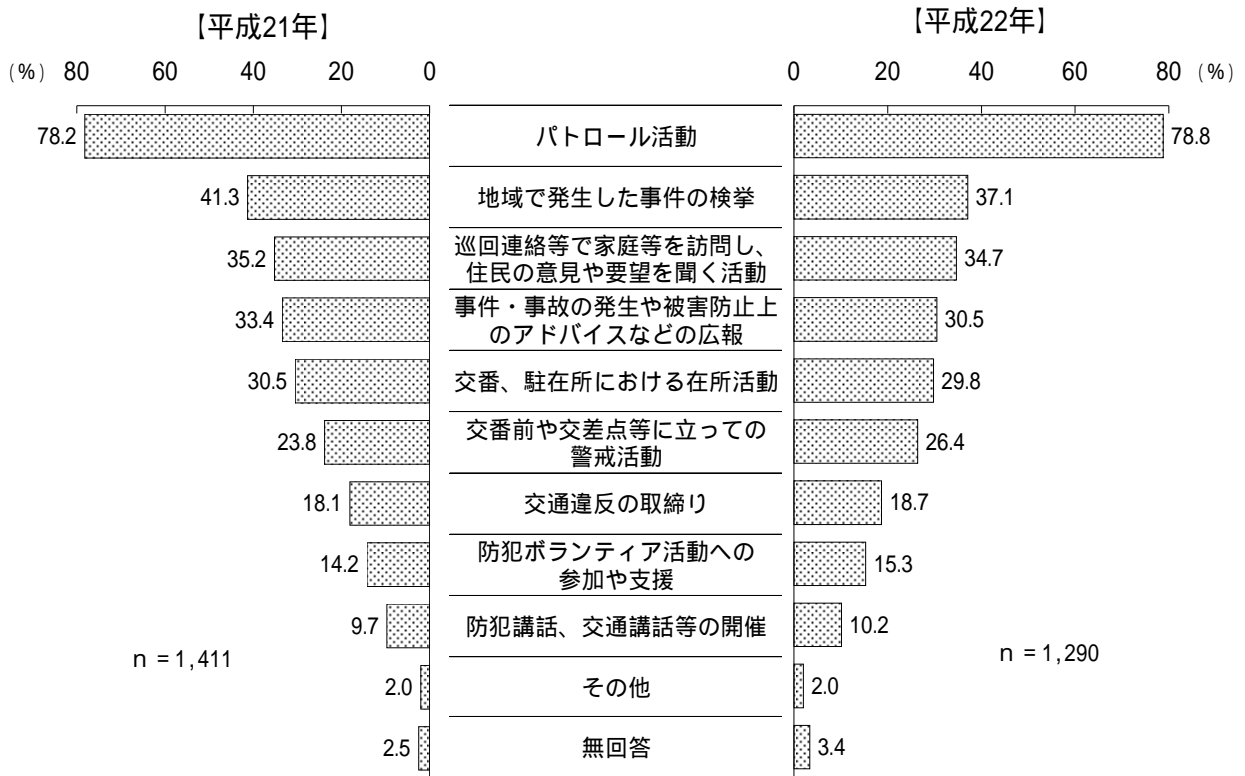
( n = 1,290 )

- ・ 全体で見ると、「利用したことはないが、内容は知っている」( 49.3% )がほぼ5割と最も高く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」( 36.0% )が3割半ばとなっている。また、「実際に利用したことがある」( 3.3% )と「まったく知らない」( 7.0% )が1割未満となっている。
- ・ 性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」では 男性 ( 40.9% )が 女性 ( 32.3% )より 8.6 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性 / 年齢別で見ると、「実際に利用したことがある」では 女性 65 ~ 69 歳 ( 12.1% )が最も高く、「利用したことはないが、内容は知っている」では 女性 50 歳代 ( 60.6% )と 女性 60 ~ 64 歳 ( 60.0% )が6割以上、「聞いたことはあるが、内容は知らない」では 男性 20 歳代 ( 54.5% )と 男性 30 歳代 ( 52.6% )が5割以上と高くなっている。

## 8 犯罪と治安対策について

### (1) 交番等の警察官に特に力を入れてほしい活動

問 25 あなたが、交番等の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。次の中からいくつか選んでください。 [ n = 1,290 ]

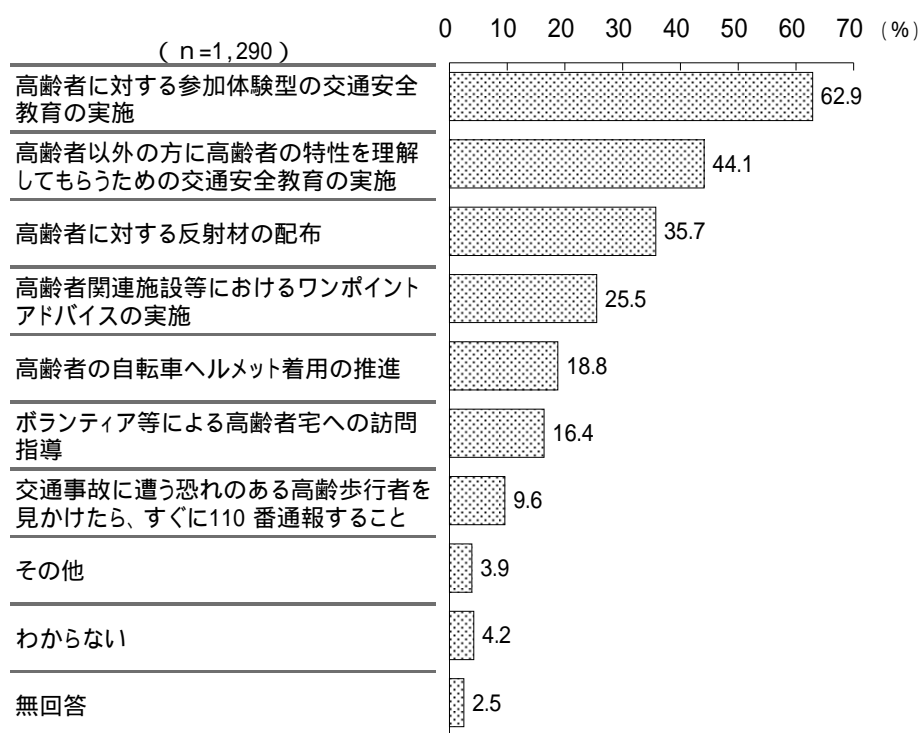


- ・ 全体で見ると、「パトロール活動」(78.8%)が8割近くと最も高くなっている。次いで、「地域で発生した事件の検挙」(37.1%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(34.7%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(30.5%)、「交番、駐在所における在所活動」(29.8%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では 男性(40.1%)が 女性(30.1%)より10.0ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「地域で発生した事件の検挙」では 男性20歳代 が61.4%と最も高く、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では 男性65~69歳(52.2%)と 男性70歳以上(51.9%)が5割を超え高くなっている。また、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」では 女性60~64歳 が45.6%、「交番、駐在所における在所活動」では 男性20歳代 が45.5%と最も高くなっている。

## ( 2 ) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問 26 高齢者が交通事故の当事者になる割合が増えています。高齢者の事故を防止するため、あなたは何が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

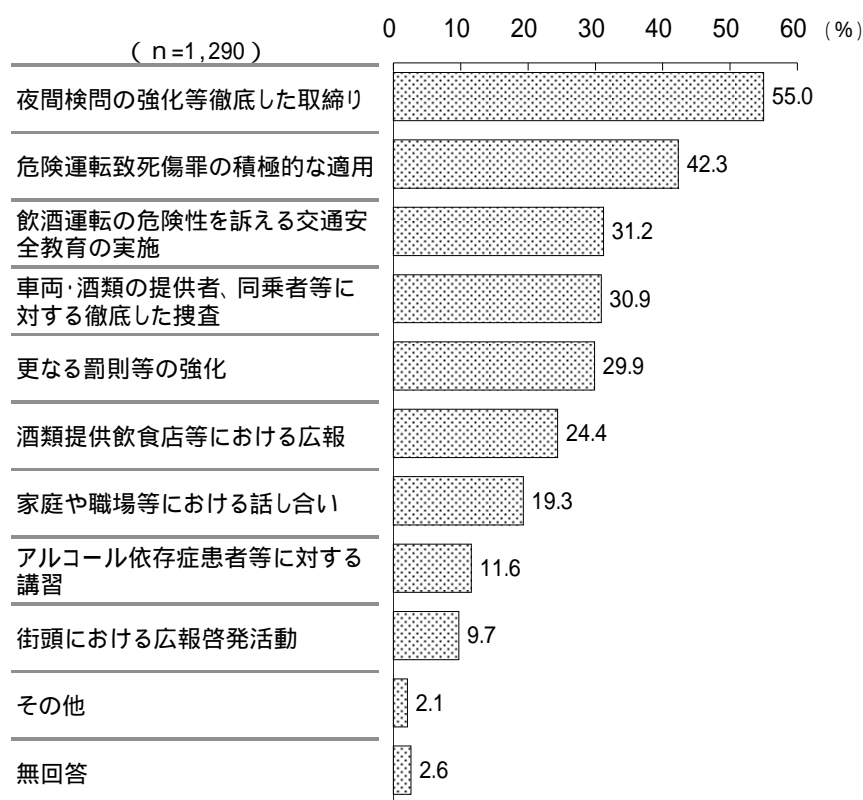
[ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「高齢者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」(62.9%)が6割を超え最も高く、次いで「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」(44.1%)、「高齢者に対する反射材の配布」(35.7%)、「高齢者関連施設等におけるワンポイントアドバイスの実施」(25.5%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では男性(48.2%)が女性(40.9%)より7.3ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「高齢者に対する反射材の配布」では女性20歳代(47.5%)と女性70歳以上(47.0%)が5割近くと他の年代と比べて高くなっている。また、「高齢者関連施設等におけるワンポイントアドバイスの実施」では男性60~64歳が37.9%と最も高くなっている。

### (3) 飲酒運転根絶のために必要な対策

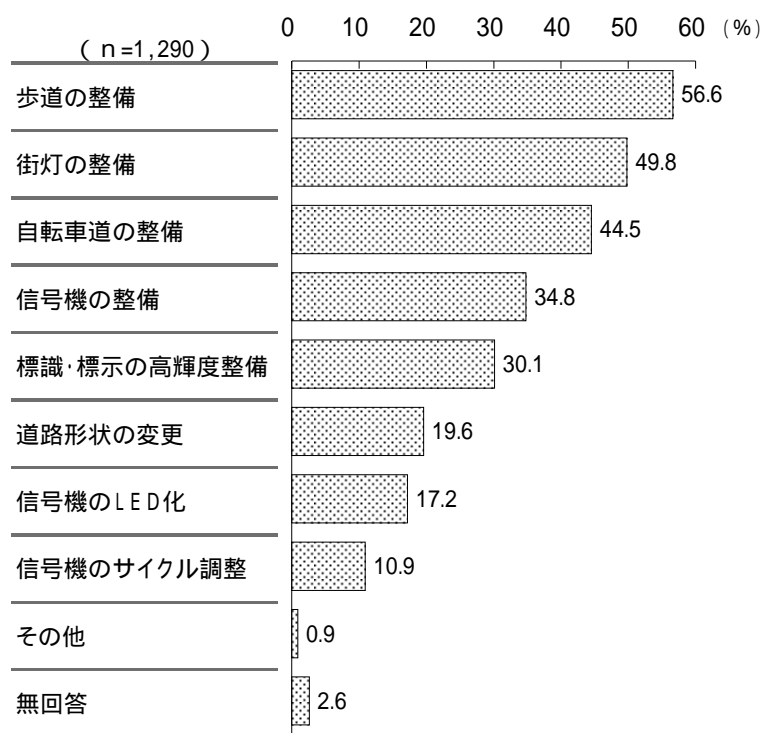
問 27 飲酒運転の罰則や行政処分が強化されましたが、依然として悪質な飲酒運転は後を絶ちません。飲酒運転を根絶するため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [ n = 1,290 ]



- ・ 全体で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」(55.0%)が5割半ばと最も高く、次いで「危険運転致死傷罪の積極的な適用」(42.3%)、「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」(31.2%)、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」(30.9%)、「更なる罰則等の強化」(29.9%)の順となっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、男性30歳代では「夜間検問の強化等徹底した取締り」が67.1%、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」が55.3%と他の年代と比べて最も高くなっている。また、「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では男性70歳以上が44.2%と最も高くなっている。

#### (4) 事故防止に役立っていると感じる施策

問 28 交通事故を防止するため、各種の交通安全施設の整備を進めていますが、あなたが事故防止に役立っていると感じる施策は何ですか。次の中から3つまで選んでください。 [ n = 1,290 ]

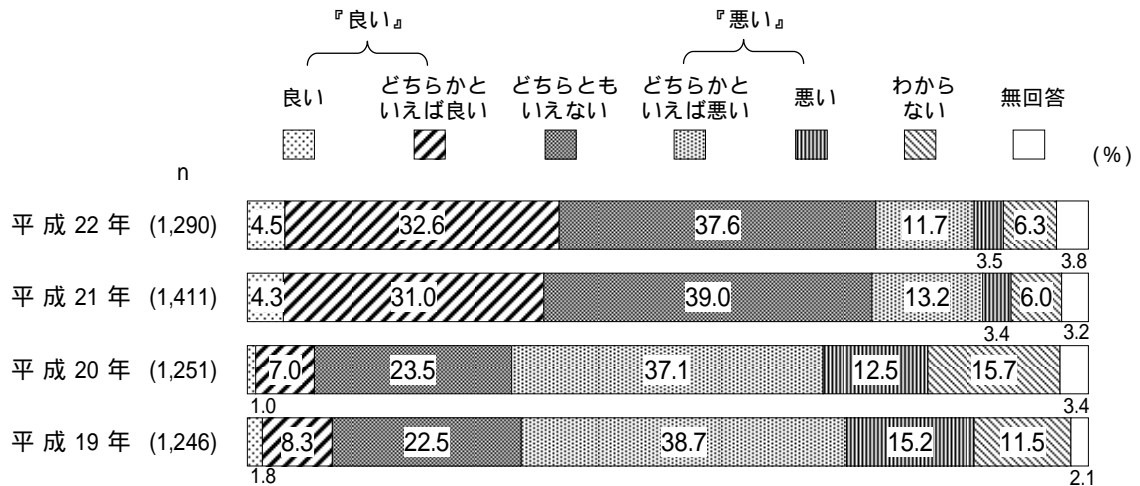


- ・ 全体で見ると、「歩道の整備」(56.6%)が6割近くと最も高く、次いで「街灯の整備」(49.8%)、「自転車道の整備」(44.5%)、「信号機の整備」(34.8%)、「標識・標示の高輝度整備」(30.1%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「道路形状の変更」では 男性 (23.4%) が 女性 (16.4%) より 7.0 ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「歩道の整備」では 男性 30歳代 が 69.7%、「標識・標示の高輝度整備」では 女性 60~64歳 が 47.8%と最も高くなっている。また、女性 65~69歳 では「自転車道の整備」が 58.6%、「信号機の整備」が 55.2%と他の年代と比べて最も高くなっている。

(5) 県内の治安状況

問 29 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[ n = 1,290 ]



選択肢の変更

平成 19・20 年

- 「良くなっている」
- 「どちらかといえば良くなっている」
- 「変化はない」
- 「どちらかといえば悪くなっている」
- 「悪くなっている」
- 「わからない」

平成 21・22 年

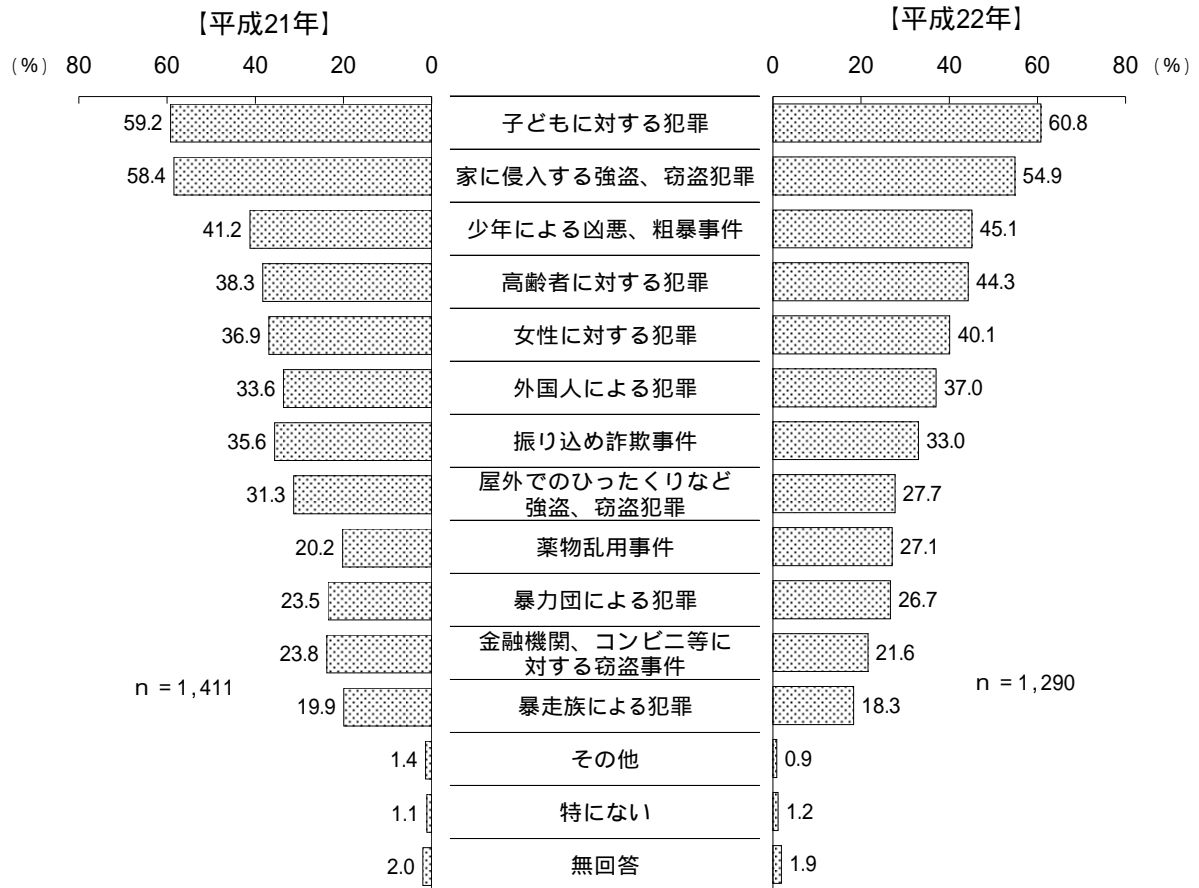
- 「良い」
- 「どちらかといえば良い」
- 「どちらともいえない」
- 「どちらかといえば悪い」
- 「悪い」
- 「わからない」

- ・ 全体で見ると、「良い」(4.5%)と「どちらかといえば良い」(32.6%)の2つを合わせた『良い』(37.1%)が4割近くとなっている。一方、「どちらかといえば悪い」(11.7%)と「悪い」(3.5%)の2つを合わせた『悪い』(15.2%)が1割半ばとなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、『良い』では 男性 70 歳代 (49.0%)と 男性 65~69 歳 (47.7%) が5割近くと高くなっている。一方、『悪い』では 男性 20 歳代 が43.2%と最も高くなっている。
- ・ 過去の調査結果と比較すると、前回(平成 21 年)とほぼ同じ傾向となっている。



(6) 不安を感じる犯罪

問 30 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。 [ n = 1,290 ]



- 全体で見ると、「子どもに対する犯罪」（60.8%）がほぼ6割と最も高く、次いで「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」（54.9%）、「少年による凶悪、粗暴事件」（45.1%）、「高齢者に対する犯罪」（44.3%）、「女性に対する犯罪」（40.1%）、「外国人による犯罪」（37.0%）の順となっている。
- 性別で見ると、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では 女性（60.5%）が 男性（48.5%）より12.0ポイント高く、男女間の差が最も大きくなっている。
- 性/年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では 女性30歳代 が81.4%、「少年による凶悪、粗暴事件」では 男性50歳代 が56.9%と最も高くなっている。また、「高齢者に対する犯罪」では男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に 女性70歳以上 が71.3%と最も高く、「女性に対する犯罪」では女性は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、 女性20歳代 が55.7%と最も高くなっている。
- 過去の調査結果と比較すると、前回調査（平成21年）より「薬物乱用事件」で6.9ポイント高く、「高齢者に対する犯罪」で6.0ポイント高くなっている。

平成22年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成22年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市埜田 1 - 1 - 20

電話 ( 028 ) 623 - 2158